

衆院選結果に酷似

山崎教授講演「今と似通う」

【沖縄】沖縄市史編集担当による「戦後史を記録する会」が20日、市中央のヒストリートIIで開かれた。「二つのコザ騒動」をテーマに大阪市立大の山崎孝史教授が講演した。1970年12月のコザ騒動と第二コザ事件の約8カ月間の市民の動向を踏まえ、「コザ騒動で蜂起しなかった人も蜂起する結果となったのが第二コザ事件。米軍の管理、制御による圧政がほぼ全域・全市民の反発をくわう結果となった。この構図は12月の衆院選の結果ともダブって見える」と解説した。

米軍圧政に反発 全域で市民蜂起

二つのコザ騒動



「二つのコザ騒動」をテーマに講演する大阪市立大の山崎孝史教授。20日、沖縄市の「ヒストリートII」。

「コザンチュは何に怒り、米軍を象徴する車両だったのか」について分析。「黄ナンバー」を攻撃対象にした山崎氏はコザ騒動が象にした「米兵と米軍を人を傷つけるのではなく、弁別した秩序ある暴動だ」と証言集などの分析結果から指摘した。

また、71年8月17日の第二コザ事件は、黒人、白人の人種対立に「沖縄社会が巻き込まれた構図」と指摘した。

米国民政府が白人特許街へ黒人兵を誘導し、人種差別営業の店舗へ制裁を強化したことで「人種対立のとはちりを受け」る形で、「コザ騒動に蜂起しなかった、米軍と利害関係のある市民までが蜂起する形になったのではないか。結果として米軍の圧政が全市民の反発をくわう」と問題提起した。

「二つのコザ騒動を通して山崎氏は「コザは沖縄県の縮図。12月の衆院選の結果は今の沖縄の現状と似通う」と話した。



年末年始警戒で合同出発式開く浦添署、100人参加

【浦添】浦添署（梶原芳也署長）は19日、年末年始に合わせた総合警戒と交通安全真民運動の合同出発式を同署駐車場で開いた。写真。署員や少年補導員、交通安全指導員、防犯ボランティアら約100人が参加し、この時期に多い飲酒運転や事件・事故を防ぐため、街頭での巡回指導に向けて気を引き締めた。梶原署長は「穏やかな新年を迎えられるよう取り組みをお願いします」と呼び掛けた。



社明運動作文で嘉数中に感謝状 中部南保護司会

【宜野湾】2014年「第64回社会を明るくする運動の作文コンテスト」で多大な協力があつたとして、中部南保護司会（森田茂会長）は17日、宜野湾市立嘉数中学校（仲田丘校長）同3人目）に感謝状を贈った。嘉数中から220点の提出があつた。森田会長は「学校が関心を持ってくれることは励みになる」と述べた。仲田校長は「これからも取り組んでいきたい」と語った。

敗北牛の涙も活写

【中部】2011年に写した新垣フミ子さん（南風真集闘牛とあまくまを出版）が11日、第2巻となる「沖繩闘牛とあまくま」を自費出版した。500部を發行し、約250部が県内の書店で販売されている。写真は闘いや技の瞬間だけでなく、勝利の喜びのシーンや徳之島闘牛の独特な

南風原) 第2弾

ライズ・レストランでも写真展を開催した。ハワイの人たちにも好評だという。闘牛場の地図や技や角の種類も紹介し、闘牛史の紹介も日本語、英文で収められている。



歓喜を表現した演奏が観客を魅了した「南ぬ島第9演奏会」=13日、石垣市民会館



城)が優勝 ジュウ杯GB